

木質工事特記仕様書

1. 一般事項

●は適用項目を示すものとする。

(1) 適用範囲

本仕様書は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。
木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。

(2) 設計図書

設計図書とは標準図、特記仕様書、設計図、指示書(現場説明書及び質疑回答書を含む)をいう。
設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。(※全て最新版による。)
「木造住宅工事仕様書」(住宅金融支援機構監修)
「公共建築木造工事標準仕様書 令和4年版」(国土交通大臣官庁官庁営繕部監修)
「木造計画・設計基準 平成29年版」(国土交通大臣官庁官庁営繕部監修)
「木造軸組工法住宅の許容応力度設計」(2017年版)(日本住宅・木材技術センター)
「日本工業規格 JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」(2015年改訂版)
「木質構造設計規準・解説」
上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。

(4) 設計図書の優先順位

設計図書の優先順位は下記による。
1. 指示書(現場説明書及び質疑回答書) 2. 設計図 3. 特記仕様書 4. 標準図

(5) 設計図の表現

設計図上”化粧”とある表記は、プレーナー仕上げ若しくはサンダー掛け程度を示す。

(6) 疑義

疑義を生じた場合は監理者に申し出、その処理方法について協議する。

(7) 製作要領書及び施工計画書の作成・提出

● 工事に先立ち、製作要領書と施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。

(8) 施工図及びプレカット図の提出

工事に先立ち施工図を作成し監理者の承諾を受ける。
プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。

(9) 製作工場 プレカット工場の選定

設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場、プレカット工場及び木工技能者を選定する。

(10) 各種試験・検査報告書の提出

施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。

2. 材料の品質

●は適用項目を示すものとする。

A-3 共通特記事項より

・木材は市産木材を原則活用する。

(1) 構造用集成材、構造用単板積層材(LVL)

本項の内容は特記無き限り、集成材及び単板積層材の日本農林規格に準拠する。
●【構造用集成材・LVL】
ラミナの枚数や特殊な試験については必要に応じて特記する。

部 位	樹種名	品 名 (LVLの場合は区分)	強度等級 (LVLの場合は曲げ性能)	材面の品質	使用環境	ホルムアルデヒド 放 量
柱	杉	対称異等級	E65-F225	2種	A	F☆☆☆☆
筋交い	杉	対称異等級	E65-F225	2種	A	F☆☆☆☆
梁	杉	対称異等級	E65-F225	2種	A	F☆☆☆☆

(2) 構造用製材

本項の内容は特記無き限り、構造用製材を対象とし、製材の日本農林規格に準拠する。
●【構造用製材】

部 位	樹種名	強度等級	乾燥処理	保存処理	材面の美観
垂 木	スギ	JAS甲種2級以上	SD20	指定なし	

☐ 主要構造部には機械等級区分製材を用いることを原則とする。
背割りを行う部材の有無
☐ 有 (背割りを行う場合は、見えがかり部・相欠き部や・構造用合板の釘接合面には行わない。)
● 無

● 強度等級を指定した材料は特に、材料の欠点の節、目切れ等注意到意して材料を選定し、仕口や接合部に欠点が当たらないように注意する。
☐ 材の曲がりについては、上記にかかわらず目視等級1級相当とする。

(3) 構造用合板、構造用パネル (OSB)、パーティクルボード、MDF等

本項の内容は特記無き限り、合板及び構造用パネルの日本農林規格又はパーティクルボード、及びMDF等の日本工業規格に準拠する。
●【構造用合板・構造用パネル (OSB)、パーティクルボード、MDF等】
単板の樹種及び構成や防虫処理については必要に応じて特記する。

部 位	強度等級 (OSBの場合は曲げ性能)	板面の品質 (注1)	製着の程度 (構造用合板の場合に記入)	寸 法	ホルムアルデヒド 放 量
屋根	2級	E-D	特類	12mm	F☆☆☆☆

※1.構造用合板の板面の品質は、通常は1級がB-C、2級がC-D
OSBの場合は、表面及び裏面に木材の小片の浮き上がりがないこと及び側面の切断面が平滑であること。
※2.特注品の場合は納期に注意すること (2ヶ月以上)

3. 耐久性(防腐・防蟻・耐候処理)

●は適用項目を示すものとする。

(1) 木材の防腐・防蟻処理

木材の防腐・防蟻処理は以下のいずれかとする。
・高耐久材の使用(注:部材は心材あるいは心持ち材または集成材とする)
・工場処理材(注:現場の加工、切断、穿孔面などは、現場処理に準じる)
保存処理材(性能区分): K5 K4 K3 K2 K1
A0認定保存処理材: 1種 2種 3種
・現場処理: 塗布、吹付、浸漬(特記無き場合は、処理量:300ml/m2、処理回数:2回)
(※接合部、亀裂部、コンクリートなどに接する部分は、特に入念な処理を行う。
給排水用塩化ビニル管に接する部分は、薬剤による損傷を防ぐため管を保護する。
処理方法は、日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。)
使用薬剤:日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする。

使用部位	高耐久材	工場処理材	現場処理
土台	☐ 心材または心持ち材	☐ K3 ☐ () ☐ 塗布	
外周柱下盤 1m	☐ () ☐ K3 ☐ () ☒ (塗布)		
外周筋かい下部 1m	☐ () ☐ K3 ☐ () ☒ (塗布)		
外周大貫系面材耐力壁下部 1m	☐ () ☐ K3 ☐ () ☐ (塗布)		
水周り	☐ () ☐ K3 ☐ () ☒ (塗布)		
その他	☐ () ☐ K3 ☐ () ☐ ()		

(2) 土壌処理

☐ 防蟻薬剤による処理:薬剤()
特記無き場合は、日本しろあり対策協会または日本木材保存協会認定品。
あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする。
☐ 防蟻薬剤による処理と同等以上の対策 (べた基礎)
☐ 土壌処理省略 ☐北海道 ☐東北 ☐北陸 ☐ ()
(※処理範囲は、外周計布基礎の内側、内部布基礎の周辺20cm、東石等の周囲20cmを標準とし、
処理方法は日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。)

(3) 耐候処理(塗装)

劣悪環境に置かれる木材等を対象とする。

部位	製品名(会社名)	塗り回数

4. 材料品質の検査方法

●は適用項目を示すものとする。

(1) 構造用集成材、構造用単板積層材(LVL)

・搬入された製品について下記の項目の受け入れ検査を実施し、特記仕様書等で指定された所定の製品であることを、日本農林規格(JAS)の表示ラベル、または納品書で確認すること。

(2) 構造用製材

現場または加工工場に搬入された製材等は、加工に先立ち下記の項目で受け入れ検査を実施し、記録を残す。また施工者の立会いを要する検査については、指定された検査要領に基づいて、適時抜き取り検査を実施する。
検査の結果、性能を満たさない材料については適用箇所を変更する等の措置を行う。

検査項目

☒含水率測定

☒材種・等級の確認

☒外観検査

☒寸法検査

☒抜き取り(部:柱、梁、土台、大引)

☒抜き取り(部:柱、梁、土台、大引)

☒抜き取り(部:柱、梁、土台、大引)

☒抜き取り(部:柱、梁、土台、大引)

☐全数全数

☐全数全数

・材種・等級は表示を確認し、外観・寸法検査は日本農林規格に準じて行う。
・含水率やヤング係数に表示ラベル、刻印された表示で確認し、化粧材は納品書で確認する。
・特記無き場合は、含水率計による測定は、製材受け入れ時に行う。

(3) 構造用合板、構造用パネル等

・搬入される製品について特記仕様書等で指定された所定の製品であることを、印字にて確認すること。

(4) 接合具

・現場または加工工場に搬入される接合具について抜き取りでの受け入れ検査を実施し、材質、径、長さ製品名等について特記仕様書等で指定された所定の製品であることを確認すること。
・同等性能の接合具を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得る。

(5) 接合金物

・現場または加工工場に搬入される製作金物について受け入れ検査を実施し、形状、製品名等について特記仕様書等+詳細図で指定された製品であることを確認すること。
・同等認定品や性能評価品等を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得る。

5. 木材の加工

●は適用項目を示すものとする。

(1) 加丁寸法の精度

図面表示は仕上がり寸法である。
下記を除き、 2. 1 木質材料に示す材の仕上げ後の断面寸法の許容差は各々の農林規格の寸法許容差に準ずる。ただし、上限値が制限なしとなっている場合は、協議による。
構造月製材、構造用集成材、LVL の材長
● 軸組工法の継ぎ手仕口及び金物工法の場合: 小中断面: ±1.0mm、大断面: ±2.0mm以下

せん断用ボルト穴径 (dはボルト径)
集成材: d+1.0mm (d ≤ M12) , d+2.0mm (d ≥ M16)
接合金物等: d+1.0mm (d < M12) , d+1.5mm (d ≥ M12)
ドリフトピン^①の接合金物等の穴径: d+1.0mm (d ≤ M12) , d+1.5mm (d ≥ M16)
(dはドリフトピン径)

(2) 刻み時の注意

製材に背割りのある場合、曲げ材は断面の弱軸と背割りの方向を一致させる。

6. 運搬・建方

●は適用項目を示すものとする。

(1) 輸送計画

製品の出発に当たっては、発方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。
☐ 輸送計画書の提出

(2) 集積・保管

集積の際は適当な受け台などを設け、材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。
降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。
☐ 集積場の確認

(3) 建方計画

☐ 建方計画書の提出
アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方、養生、安全対策などについて検討し、建方計画書としてまとめる。

(4) 施工時の安全性

建方作業やおよび作業後、構架材上に諸材料または機械などの重物を積載する場合、あるいは柱に大きな引張力を与えるなどの場合は監理者の承認を受ける。また、強風などによる諸外力に対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。
☐ 施工時の安全性に対する検討書の提出 ☐ 施工時荷重条件の通知

(5) アンカーボルトの施工

・芯出しは、型板を用いて基準準に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。
・アンカーボルトは鉄筋等を用いて組立て、適切な補助材で固定しコンクリートの打ち込みを行う。
・アンカーボルトはダブルナットとする。
● 適用除外 [Sマーク金物の仕様による場合]
・土台の穴あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。

(6) 建方精度

・建方の精度基準は下記による。
● 建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
● 建物の倒れ: ☐ e ≤ H / 2500-10mm かつ e ≤ 50mm
☐ []
● 梁の水平度: ☐ e ≤ L / 700+5mm かつ e ≤ 15mm
(節点間のレベル差) ☐ []
● 建物のわん曲: ☐ e ≤ L / 2500mm かつ e ≤ 25mm
☐ []
● 柱据え付け面の高さ及びアンカーボルトの位置
柱据え付け面の基準高さからの誤差: ☒ ±3mm以下 ☐ []
通り芯からの誤差: ☒ ±3mm以下 ☐ []
階 高: ☒ -5mm ≤ ΔH ≤ +5mm
☐ []

(7) 施工状況の検査

☐ アンカーボルト施工時の立会い検査
● 施工者自主検査記録の提出
☐ 地組み時の立会い検査
● 施工者自主検査記録の提出
☐ 建方時の立会い検査
● 施工者自主検査記録の提出
☐ 建方後の施工状況の検査
● 施工者自主検査記録の提出
☐ 最終確認
工事中に発生するボルトの緩み、接合具および接合金物に影響する材の割れ、接着面のはがれ等に注意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
● 施工者自主検査記録の提出

7. 耐火性能

●は適用項目を示すものとする。

耐火性能	主要構造部の構造方法
☐ 4.5分準耐火構造 建築基準法第7条第7号の二 型耐火建築物仕様	国土交通省告示 第1358号 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(集成) 柱 35 mm 梁 35 mm 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(製材) 柱 45 mm 梁 45 mm
☐ 1時間準耐火構造 建築基準法第112条第2項	国土交通省告示 第195号 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(集成) 柱 45 mm 梁 45 mm 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(製材) 柱 60 mm 梁 60 mm
☐ 耐火構造	国土交通省告示 第1399号 一般社団法人日本木造住宅産業協会認定仕様 一般社団法人日本木造耐火建築協会認定仕様
☐ 主要構造部を木造とすることができる大規模の建築物 建築基準法第112条の2第3 第九号の三 の二 -1	国土交通省告示 第1902号 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(集成) 柱 25 mm 梁 25 mm 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(製材) 柱 30 mm 梁 30 mm
●準耐火構造ロー1 建築基準法第7条第1項 第九号の三 の二 -1	建築基準法施行令第109条の3 (1)

工事名称

矢板市立東小学校改築工事

図面名称/縮尺

木質工事特記仕様書 A1(S=1/)
A3(S=1/)

図面番号

設計年月日

令和7年3月21日

設計者

S-301

発注者

矢板市役所

継手・仕口部の接合金物（ホームコネクター）標準仕様書

- (1) 一般事項
1. 接合部材は、校管着脱式中空鋼製棒状部材(ホ-コネクター)と専用接着剤 (AHC-E) で構成する。
(名称はホームコネクター工法 以下コネクターと称す)
 2. 使用材料、器具、及び付属品はメーカー仕様による。
 3. 施工者は、コネクターの位置決め、接合部材への孔開け、施工手順等については、必ずメーカーの技術指導を受け、施工現場においては、必ず1名以上メーカーの施工研修を受けた作業員が常駐し施工管理を行う事を施工条件とする。

- (2) コネクターの種類
1. T型（主に継手用）及びS型（仕口用）、L型（仕口用）の3種類とする。形状は下図参照。
 2. 両タイプ共、ネジ込み式校管より接着剤を注入し、接合金物周囲に充填する。

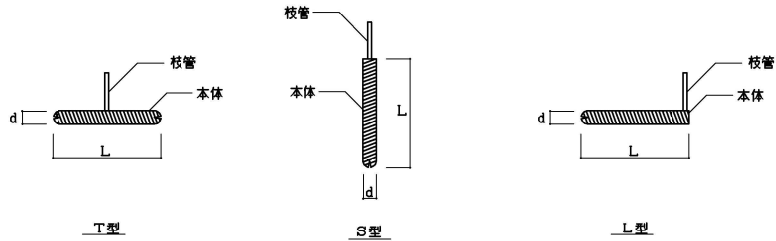
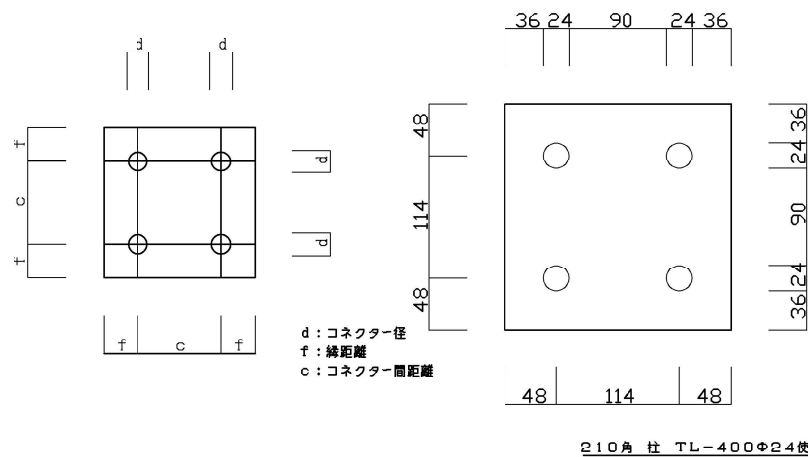


表1. 製品一覧表

製 品 リ ス ト				木材加工リスト		接合耐力(KN)			
名称(仕様)	長さ(全長) L(mm)	定着長 1/2L(mm)	直 径 φ(mm)	挿入孔径(mm)	T型コネクター孔深さ	S型コネクター孔深さ	長期	短期	長期
TL(SL)-70φ10	70	35	10	φ12±1	40~43	35~37	1.65	3.30	0.84
TL(SL)-100φ10	100	50	10	φ12±1	55~58	50~52	2.35	4.70	1.05
TL(SL)-100φ18	100	50	18	φ21±1	55~60	50~55	4.20	8.40	2.15
TL(SL)-150φ18	150	75	18	φ21±1	80~85	75~80	6.35	12.70	3.18
TL(SL)-200φ18	200	100	18	φ21±1	105~110	100~105	8.40	16.80	3.56
TL(SL)-250φ18	250	125	18	φ21±1	130~135	125~130	10.60	21.20	4.03
TL(SL)-300φ18	300	150	18	φ21±1	155~160	150~155	12.70	24.50	4.54
TL(SL)-300φ24	300	150	24	φ27±1	155~160	155~160	16.95	33.90	6.73
TL(SL)-400φ24	400	200	24	φ27±1	205~210	200~205	22.60	45.20	8.07
TL(SL)-500φ24	500	250	24	φ27±1	255~260	250~255	28.20	56.40	14.67

※L型コネクターについては、使用法により定着長が変わるため、部材加工等については、設計図書の指示に従うこと。

- (3) コネクターの位置
- 位置決めをする際は、以下のことに注意すること。
1. 曲げの生じる接合部には、必ず材の引っ張り側にコネクターを配置すること。
 2. 締距離は2.0φ以上とする。
 3. 締距離が不足すると木材の内部破壊を早めるので注意すること。
 4. コネクター間距離は2.5φ以上とする。
 5. コネクター交差部は、コネクター同士が重ならない様、位置決めの際は注意すること。



- (4) 施工時の注意事項
- (接合金物のセット時)
1. コネクターに付属する校管は専用接着剤を注入するためのものであり、ネジによる着脱式になっている。
注入後は取り外すため、セット時は取り外しに支障がない程度のネジ込みとしておくこと。
 2. 接合部材への孔開けは、表1（メーカー確認のこと）とし、孔内に削りかす等を残さないようにすること。
又、孔深さは、T型コネクターの場合は校管中心からの左右は同寸法となる様に、S型コネクターの場合は、金物長さの中央が接合部材の接点になる様にすること。
 3. T型コネクターは、一方の木口に校管装着用の溝（幅×深さ 各12mm）をルーター等で加工しておくこと。
 4. セット完了後は、接着剤注入分のスペースがあるため、少し力がつく程度になっているはずなので確認をする。

- (建方時)
1. コネクターは、接着剤注入、硬化後でないと接合耐力はないので、注入を後で行う場合は、建方時に継手又は仕口を固定するための仮設材（添え板又はビス留め 等）を考慮すること。
 2. 柱脚等、建方時にコネクターをセットする時は、校管を装着用の溝にきちんと入れておくこと。ずれて部材の下敷きになったりすると校管がつぶれて接着剤が注入出来なくなるので注意すること。

(接着剤注入時)

1. 接着剤は専用の注入ガンと注入ノズルを用いて校管より注入する。1本当たりの注入は中断することなく行うこと。校管装着用の溝から接着剤の逆流を確認すれば注入完了となる。
尚、専用注入ガン以外の注入器具を使用する場合は、メーカーに確認のこと。
2. 接着剤の充填は、以下の方法で確認すること。
 - ・T型の場合、校管装着用溝と校管の間に接着剤の逆流が生じることを目視確認すること。
 - ・S型の場合、接着剤の逆流により、接合金具が完全に接着剤に埋没することを目視確認すること。
 - ・L型の場合、校管用挿入孔と校管の間に接着剤の逆流が生じる事を目し確認すること。
3. 注入完了後はすみやかに込栓を打ち込む。接着剤は硬化過程で膨張するので、込栓はしっかり打ち込んでおくこと。
4. 接着剤が硬化し所定の接合部強度が発現するまでは養生期間が必要となる。その間は接合部に大きな応力がかかる工事は行わないこと。養生期間は以下の目安を参考にすること。

養生期間の目安

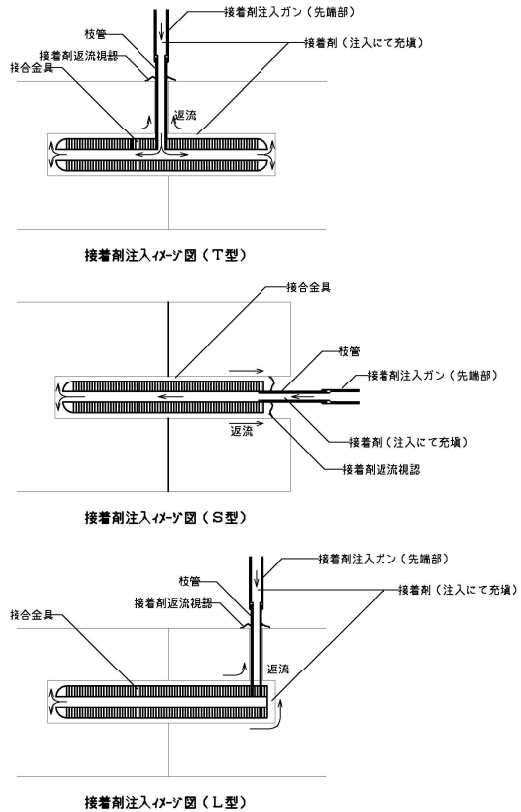
AHC-E (IHC) の場合

最低気温	15度以上	15度未満～10度	10度未満～5度
養生期間	12時間	1日	2E

- ※フレームを地組みして、クレーン等による吊り上げを行う場合や、接合部位に大きな応力が生じる可能性がある場合は、養生期間は上記の2倍とすること。
- ※10度未満の気温で施工を行う場合は、接着剤のカートリッジを湯煎等で30～40度に暖めた上で接着剤の注入を行うこと。
- ※5度以下での使用は禁上。5度以下となる場合はジェットヒーターなどにより接合部近傍の温度が5度以上となるよう対策を行うこと。

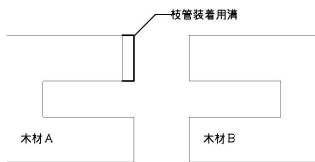
(使用木材)

1. 木材は乾燥材（含水率20%以下）のものを使用すること

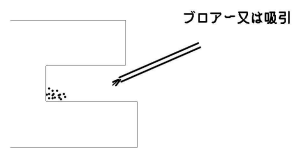


施工手順（T型）

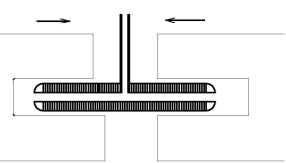
- 1) 孔開け
- 木材A、Bの接合面に孔を開ける。
一方の木材に校管装着用の溝を掘る。



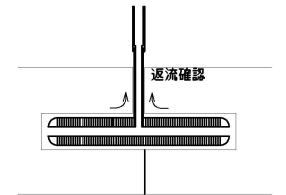
- 2) 孔内清掃



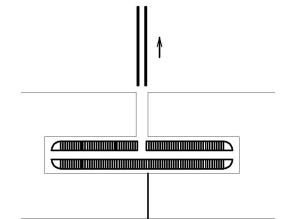
- 3) コネクターセット



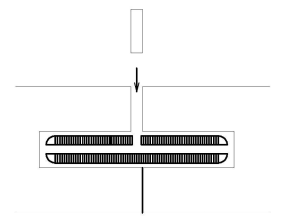
- 4) 接着剤注入



- 5) 接着剤逆流視認後、校管を外す



- 6) 込栓を打ち込み

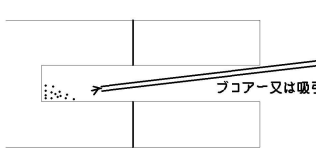


施工手順（S型）

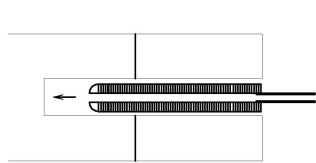
- 1) 孔開け
- 木材Aを貫通し、木材Bまで孔を開ける。



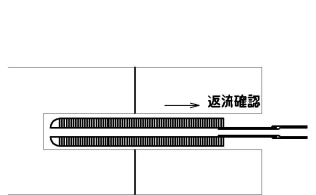
- 2) 孔内清掃



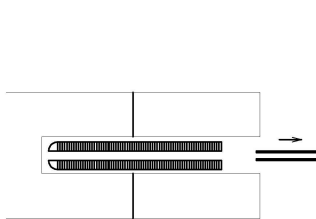
- 3) コネクターセット



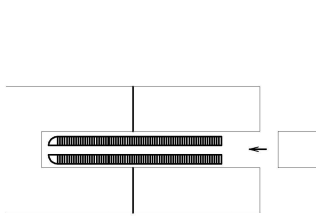
- 4) 接着剤注入



- 5) 接着剤逆流視認後、校管を外す

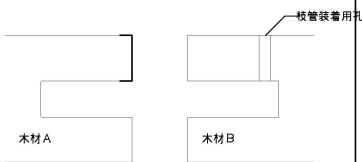


- 6) 込栓を打ち込み

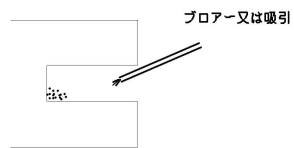


施工手順（L型）

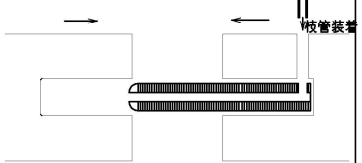
- 1) 孔開け
- 木材A、Bの接合面に孔を開ける。
一方の木材に校管装着用の穴を開ける。



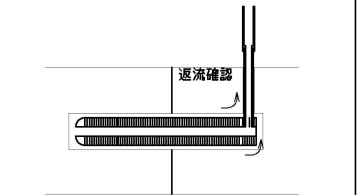
- 2) 孔内清掃



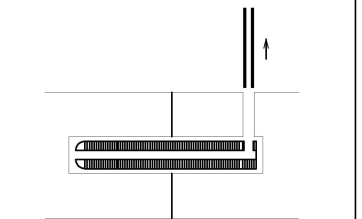
- 3) コネクターセット



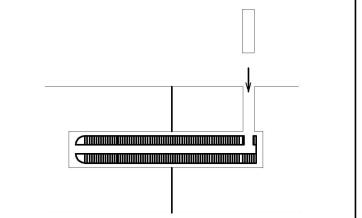
- 4) 接着剤注入



- 5) 接着剤逆流視認後、校管を外す



- 6) 込栓を打ち込み



工事名称	矢板市立東小学校改築工事		
図面名称/縮尺	継手・仕口部の接合金物 (ホームコネクター)標準仕様書	A1(S=1/ -) A3(S=1/ -)	図面番号
設計年月日	令和7年3月21日		S-303
設計者			
発注者	矢板市役所		



屋根葺き材仕様

フッ素ガルバリウム鋼板:0.4嵌合式立ハゼ葺#455 (発泡ポリエチレンt2.0裏貼) 改質アスファルトルーフィングt1.0(片面接着) 野地板:構造用合板t12 垂木:45:120#455 はぜの間隔 455mm 吊子の間隔 250mm(1箇所釘2本留め) 釘の仕様 N50 18本/m2
--

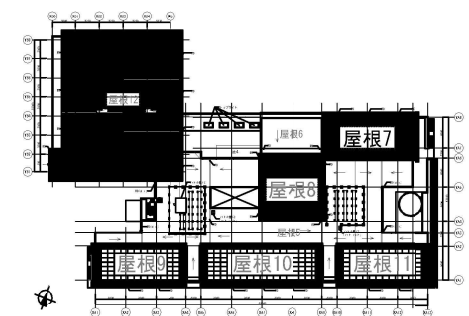
使用部材・防腐防蟻
軸組みに使用している柱・土台はJASの規定通り
防腐・防蟻については木質工事特記仕様書に記載通り

柱の有効細長比			
7c1化粧	$\lambda = 2.065/34$	61=59.61	<150 OK
7c2化粧	$\lambda = 3.925/34$	61=113.30	<150 OK
7c3	$\lambda = 5.470/43$	39=126.32	<150 OK
7c4	$\lambda = 5.079/43$	39=117.29	<150 OK

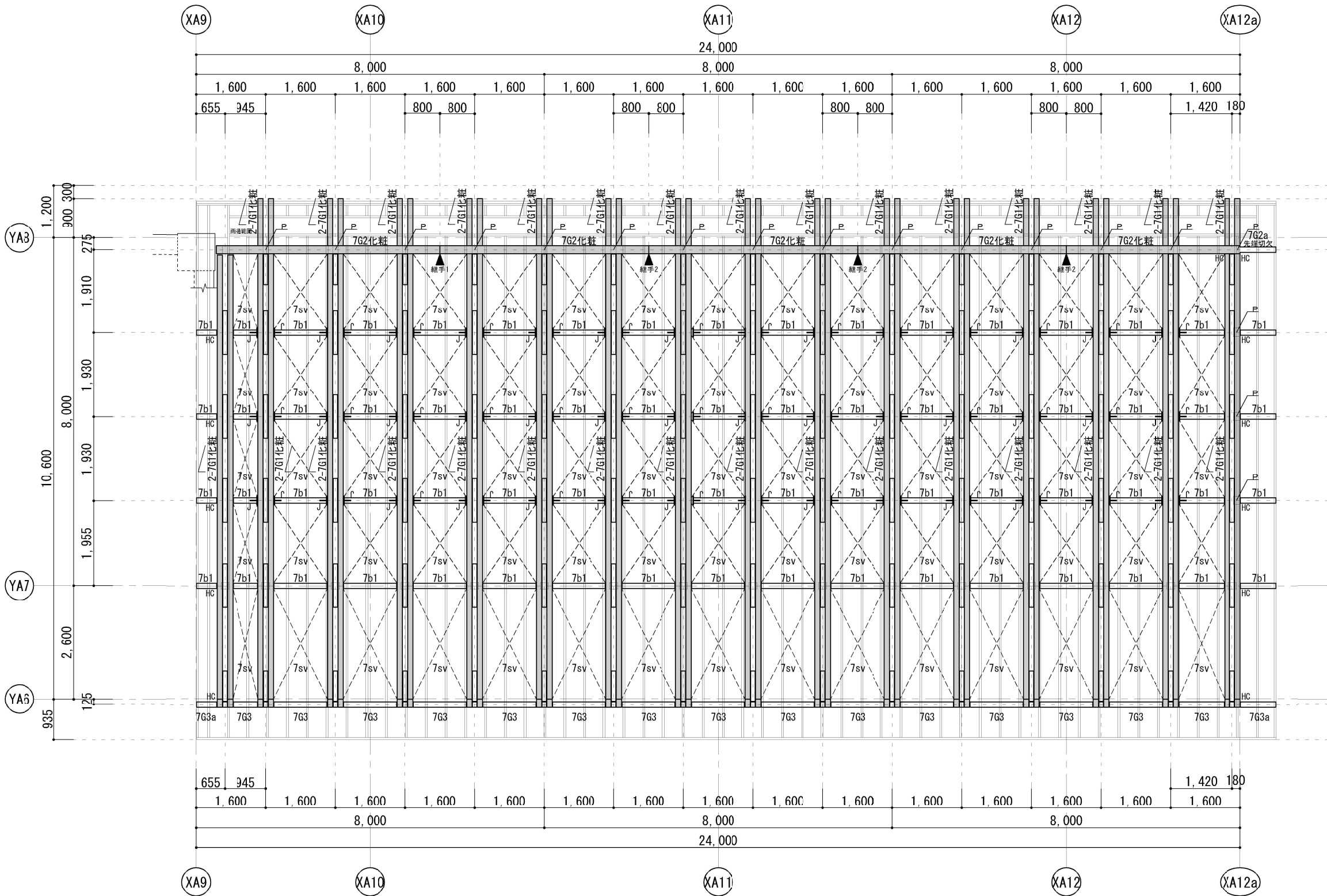
特記事項

*) 図中の金物符号は以下を示す

B:B120



工事名称	矢板市立東小学校改築工事		
図面名称/縮尺	校舎(木造) 屋根7 柱伏図	A1(S=1/50) A3(S=1/100)	図面番号
設計年月日	令和7年3月21日		S-304
設計者			
発注者	矢板市役所		

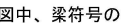


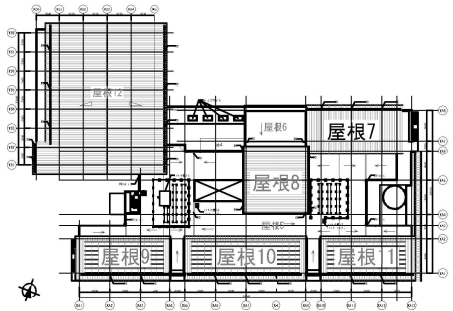
断面リスト			
符 号	サイズ	材 種	等 級
7c1化粧	120x180	杉集成材	E65-F225
7c2化粧	120x180	杉集成材	E65-F225
7c3	150x180	杉集成材	E65-F225
7c4	150x180	杉集成材	E65-F225
7V1化粧	120x180	杉集成材	E65-F225
7V2化粧	120x180	杉集成材	E65-F225
7G1化粧	120x480	杉集成材	E65-F225
7G2化粧	180x600	杉集成材	E65-F225
7G2a	120x180	杉集成材	E65-F225
7G3	120x360	杉集成材	E65-F225
7G3a	120x180	杉集成材	E65-F225
7b1	120x180	杉集成材	E65-F225
7sv	M18TB	鋼材	SNR400B
垂木	45x120	スギ製材	JAS甲種2級以上

屋根葺き材仕様
フッ素ガルバリウム鋼板:0.4嵌合式立ハゼ葺@455
(発砲ポリエチレンt2.0裏貼)
改質アスファルトルーフィングt1.0(片面接着)
野地板:構造用合板t12
垂木:45:120@455
はぜの間隔 455mm
吊りの間隔 250mm(1箇所釘2本留め)
釘の仕様 N50 18本/m2

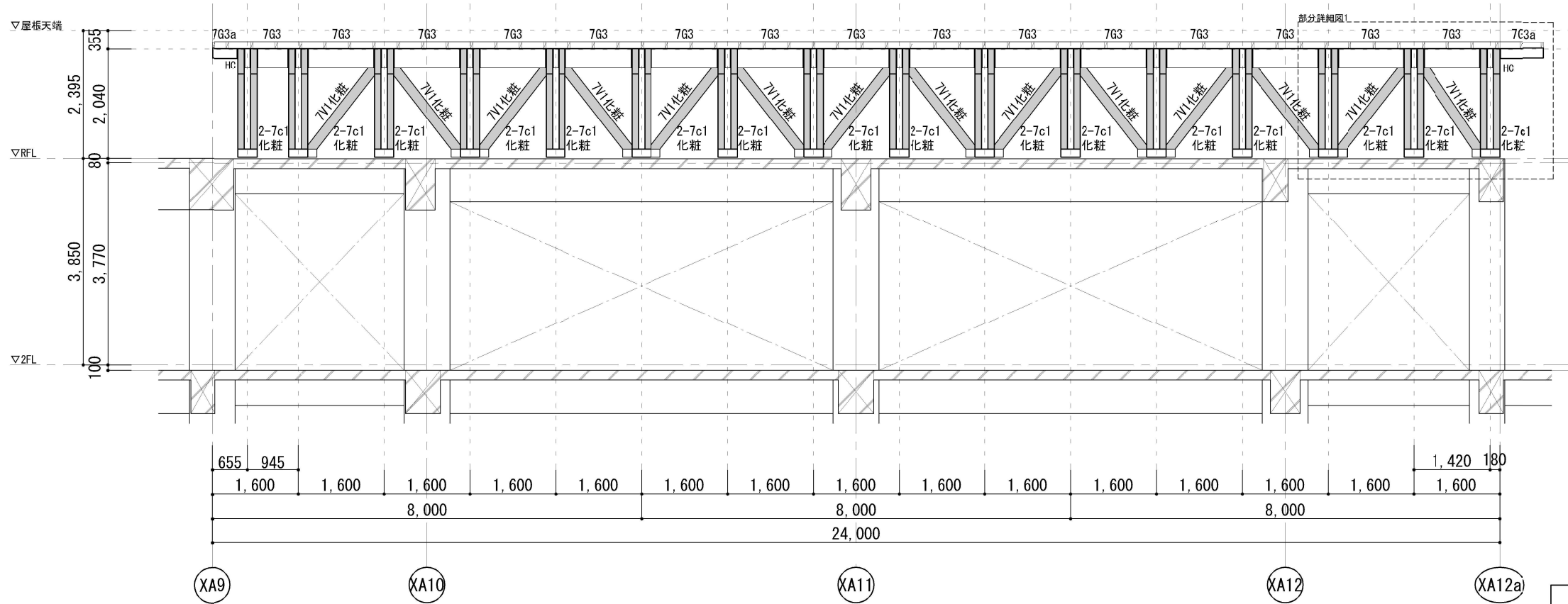
使用部材・防腐防蟻
軸組みに使用している柱・土台はJASの規定通り
防腐・防蟻については木質工事特記仕様書に記載通り

柱の有効細長比
7c1化粧 $\lambda=2,065/34.6l=59.61$ <150 OK
7c2化粧 $\lambda=3,925/34.6l=113.30$ <150 OK
7c3 $\lambda=5,470/43.3l=126.32$ <150 OK
7c4 $\lambda=5,079/43.3l=117.29$ <150 OK

特記事項
*) 図中、梁符号の  は登り梁を示す
*) 垂木は45x120@455とする
*) 屋根は構造用合板t=12 (CN50@150) とする
*) 図中、 は化粧部材を示す
*) 図中、 は梁継手位置を示す
*) 図中の金物符号は以下を示す
P:SPT-I0 J:J-18 HC:ホームコネクター

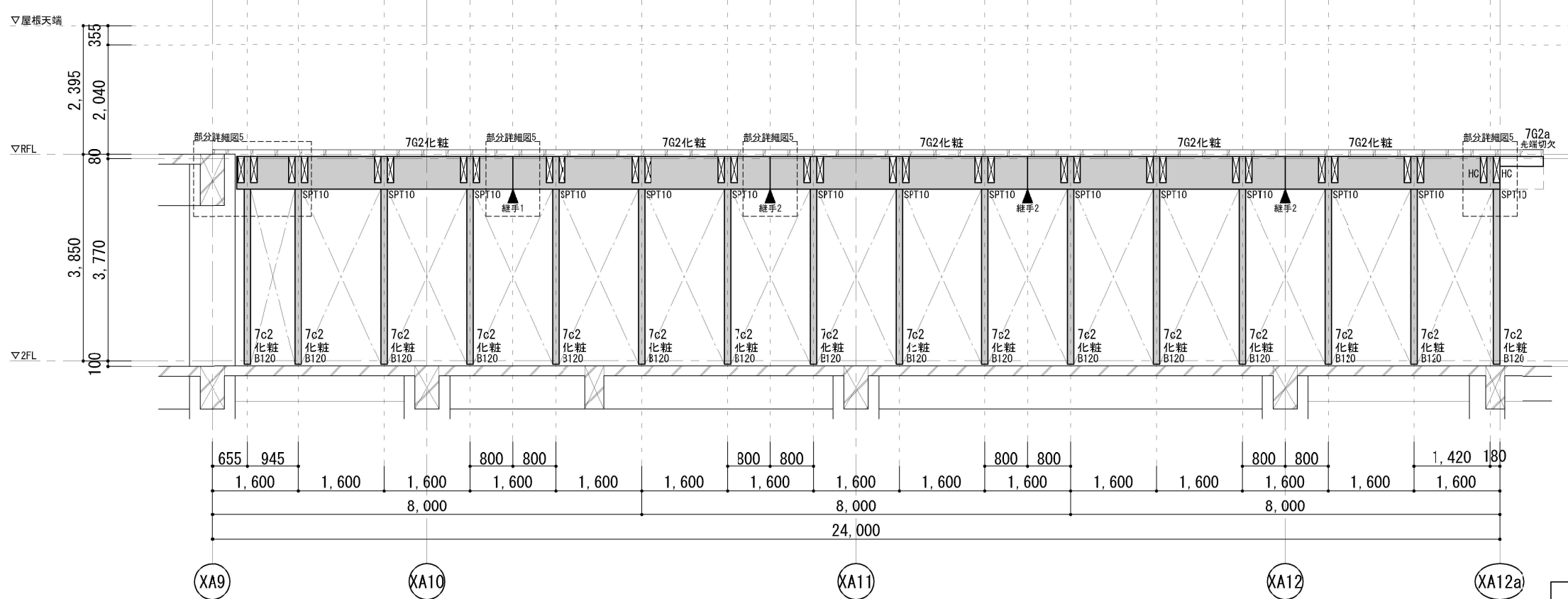


工事名称	矢板市立東小学校改築工事		
図面名称/縮尺	校舎(木造) 屋根7 屋根伏図 A1(S=1/50) A3(S=1/100)		図面番号
設計年月日	令和7年3月21日		S-305
設計者			
発注者	矢板市役所		



特記事項
*) 図中、 は化粧部材を示す

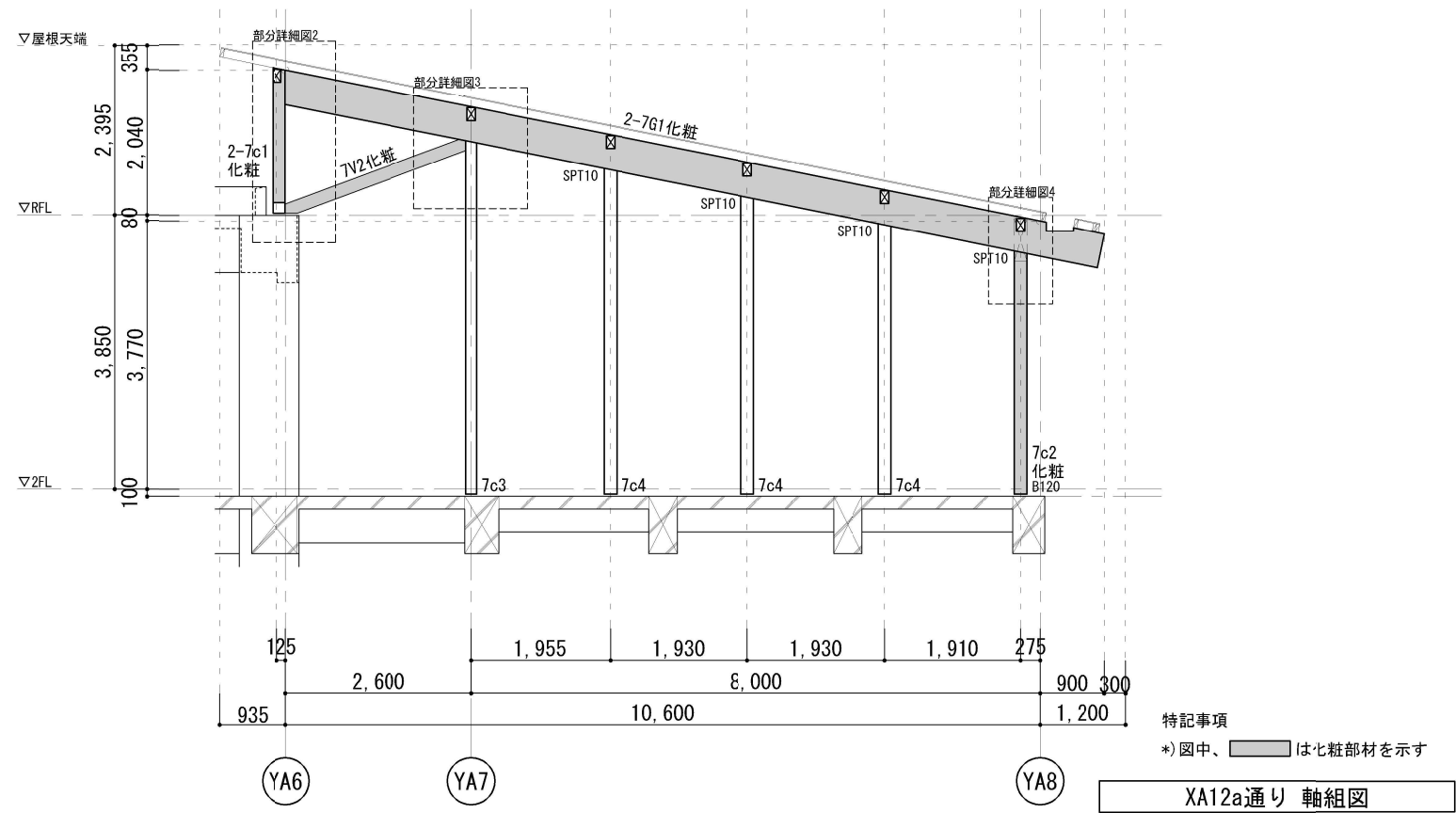
YA6通り 軸組図



特記事項
*) 図中、 は化粧部材を示す
*) 図中、▲ は梁継手位置を示す

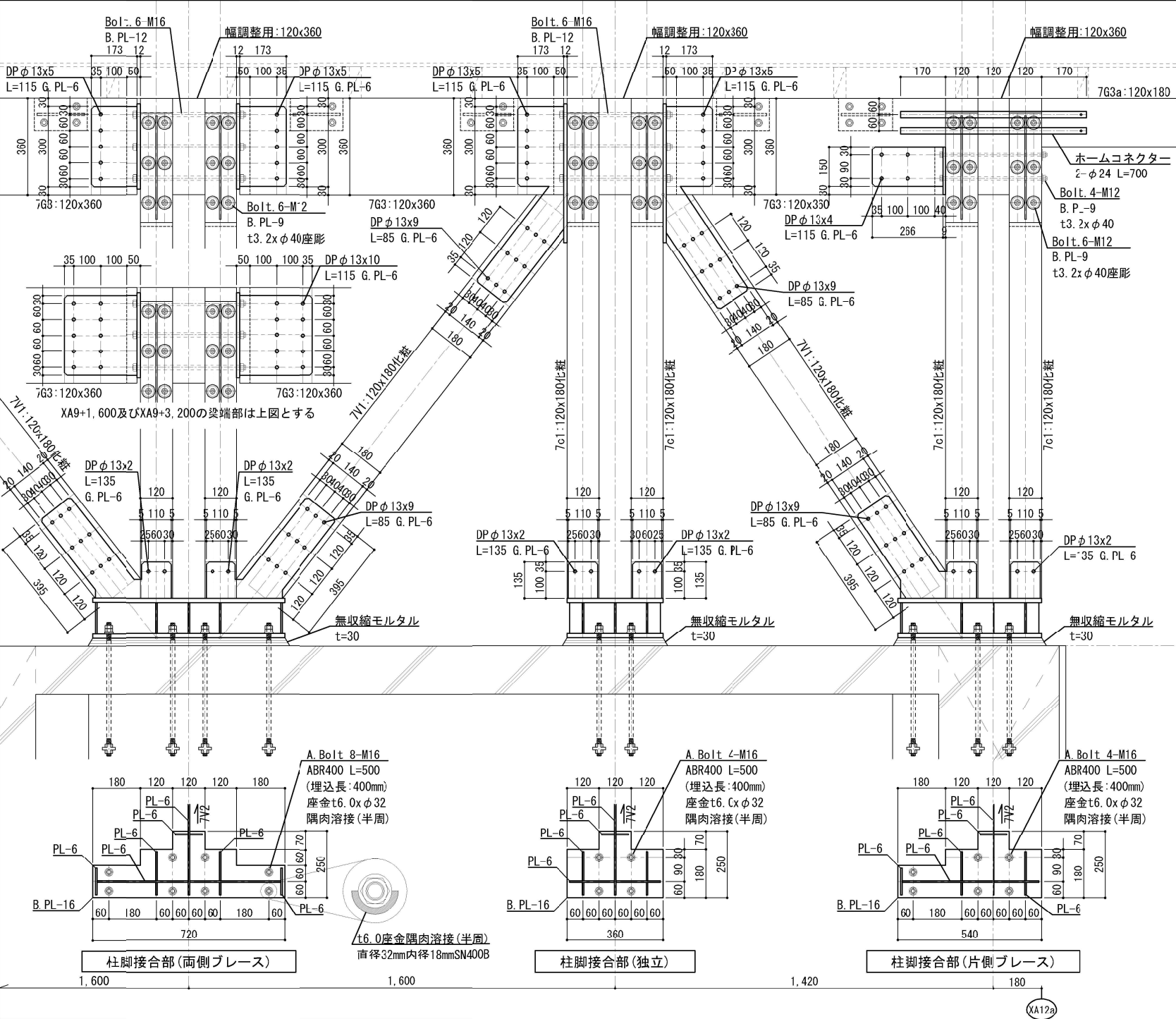
YA8通り 軸組図

工事名称	矢板市立東小学校改築工事		
図面名称/縮尺	校舎(木造)屋根7 軸組図(1) $\frac{A1(S=1/50)}{A3(S=1/100)}$		図面番号
設計年月日	令和7年3月21日		S-306
設計者			
発注者	矢板市役所		

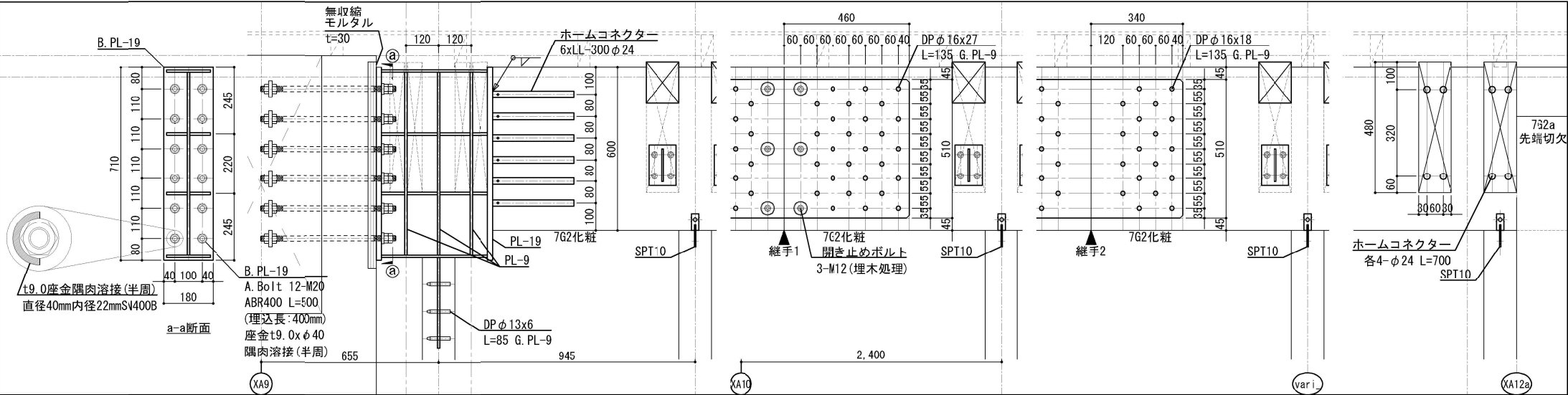


工事名称	矢板市立東小学校改築工事		
図面名称/縮尺	校舎(木造)屋根7 軸組図(2) A1(S=1/50) A3(S=1/100)		図面番号
設計年月日	令和7年3月21日		S-307
設計者			
発注者	矢板市役所		

[部分詳細図1]YA6通り 架構詳細図

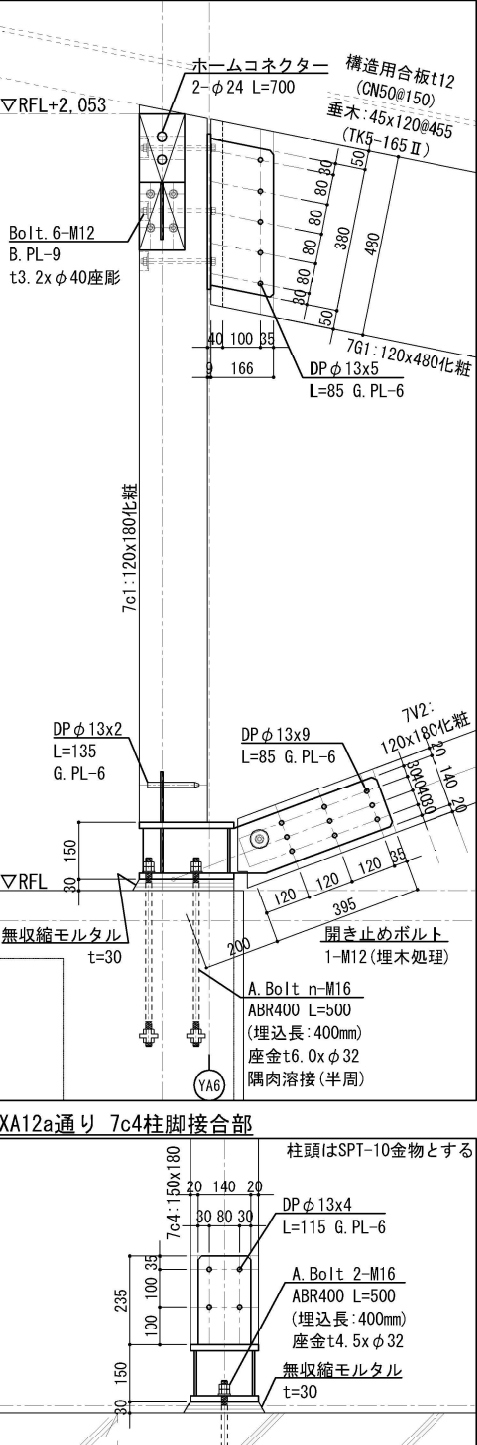


[部分詳細図5]YA8通り 7G2継手等

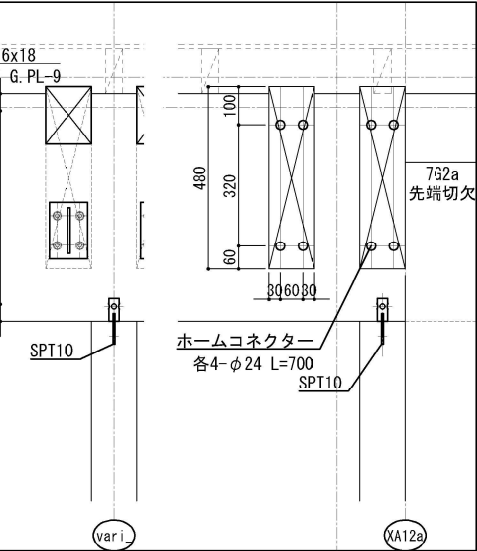


■共通事項
) 接合部材の材質はSS400とする。) ここに示す接合部と同等以上の耐力を持つこと。*) 各接合部において、施工上の納まりによるピン・ボルト寸法の変更、プレート形状の変更・追加は可とする。ただし、ピン・ボルトの間隔は「木質構造設計基準・同解説」の接合具配置の距離・間隔に準拠する。

[部分詳細図2]YA6通り 7c1柱頭柱脚接合部



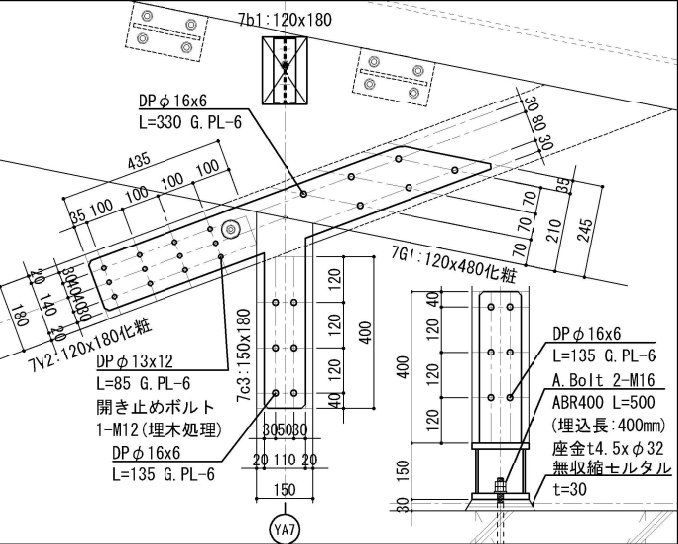
[部分詳細図3]YA7通り 7c3柱頭柱脚接合部



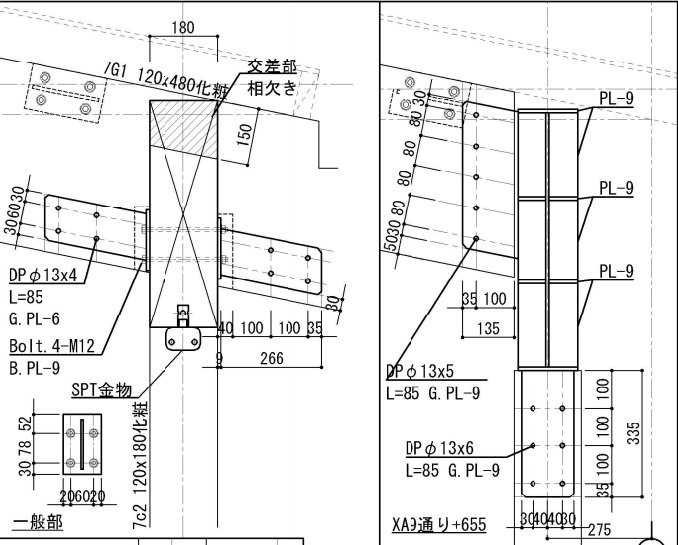
[部分詳細図4] YA8通り 7c2柱頭柱脚接合部



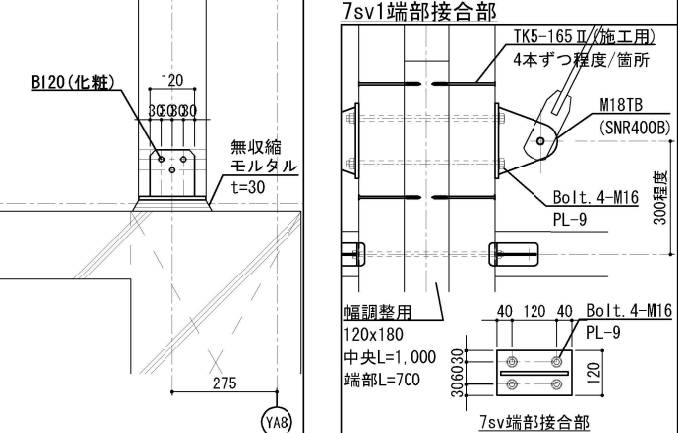
[部分詳細図3]YA7通り 7c3柱頭柱脚接合部



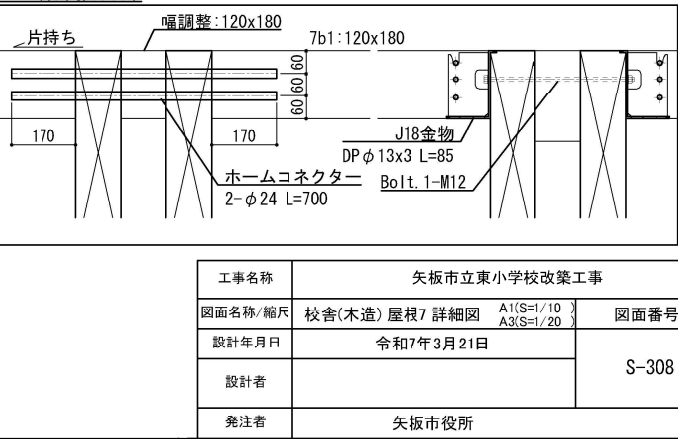
[部分詳細図4] YA8通り 7c2柱頭柱脚接合部



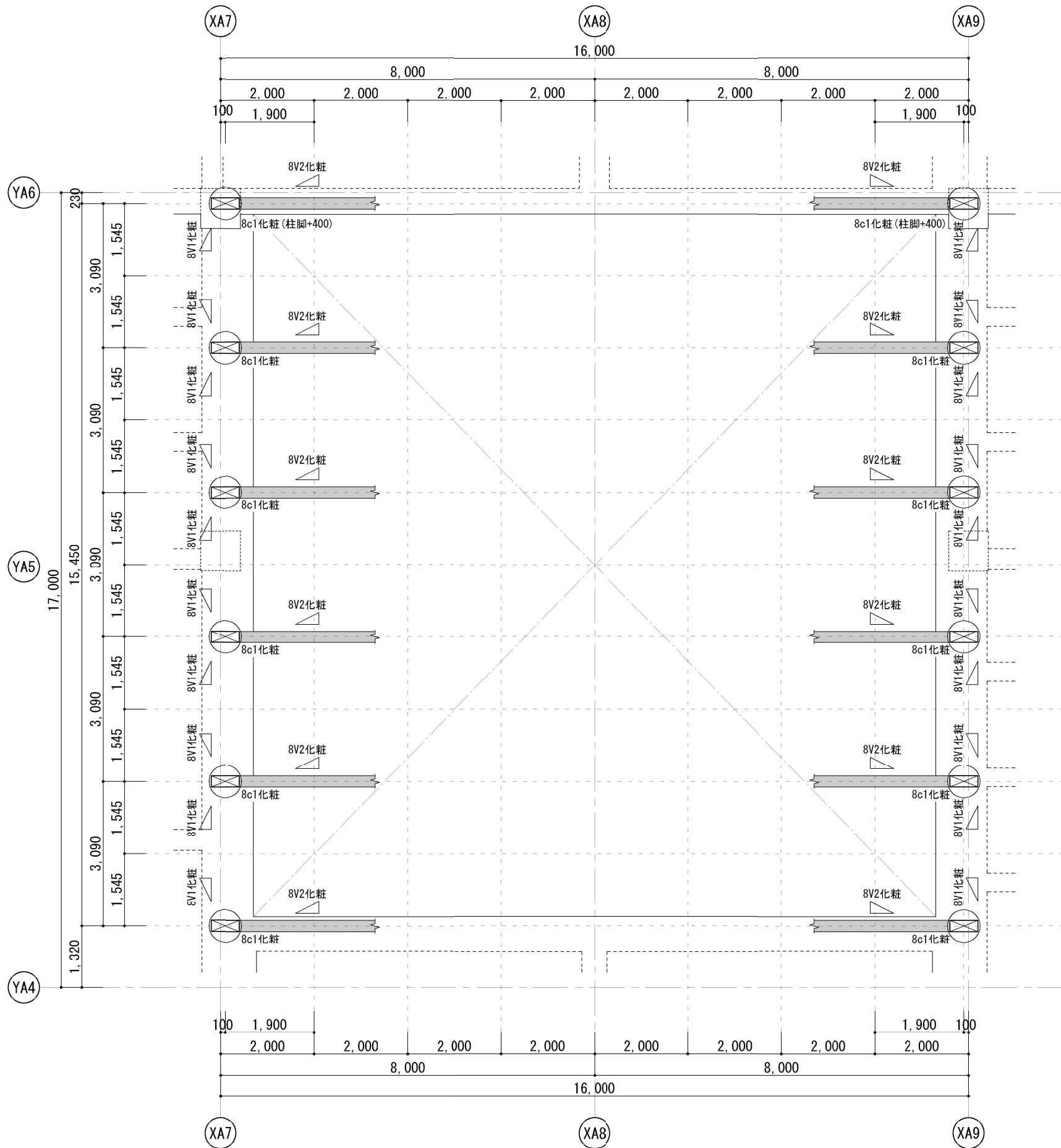
[部分詳細図5]YA8通り 7G2継手等



[部分詳細図6]YA8通り 7G2継手等



工事名称	矢板市立東小学校改築工事		
図面名称/縮尺	校舎(木造) 屋根 / 詳細図	A1(S=1/10) A3(S=1/20)	図面番号
設計年月日	令和7年3月21日		
設計者			
発注者	矢板市役所		



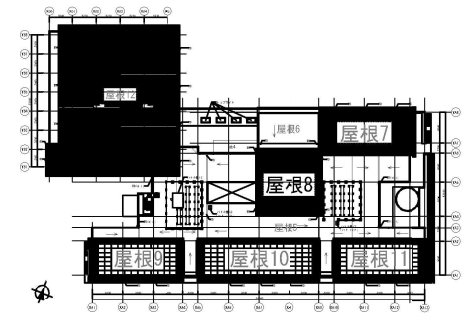
断面リスト			
符 号	サイズ	材 種	等 級
8c1化粧	240x600	杉集成材	E65-F225
8V1化粧	180x240	杉集成材	E65-F225
8V2化粧	240x300	杉集成材	E65-F225
8G1化粧	240x900	杉集成材	E65-F225
8G2化粧	180x900	杉集成材	E65-F225
8G3化粧	240x900	杉集成材	E65-F225
8b1	120x180	杉集成材	E65-F225
8sv	M22TB	鋼材	SNR400B
垂木	45x120	スギ製材	JAS甲種2級以上

屋根葺き材仕様
フッ素ガルバリウム鋼板-0.4嵌合式立ハゼ葺@455
(発砲ポリエチレンt2.0裏貼)
改質アスファルトルーフィングt1.0(片面接着)
野地板：構造用合板t12
垂木：45:120@455
はぜの間隔 455mm
吊子の間隔 250mm(1箇所釘2本留め)
釘の仕様 N50 18本/m2

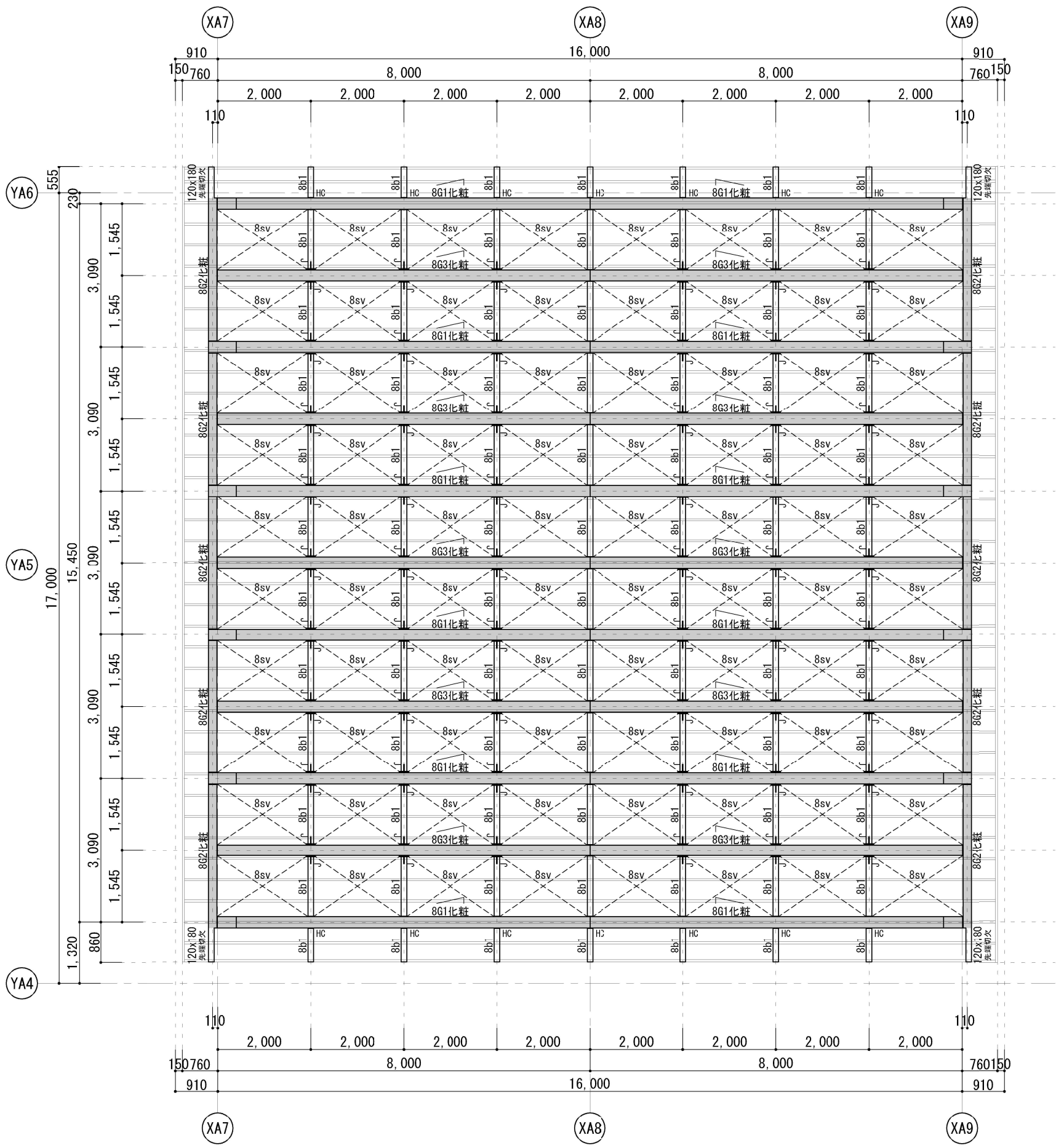
使用部材・防腐防蟻
軸組みに使用している柱・土台はJASの規定通り
防腐・防蟻については木質工事特記仕様書に記載通り

柱の有効細長比
8c1化粧 $\lambda=2,480/69.23=35.79$ <150 OK

- 特記事項
- *) 図中、梁符号の  は登り梁を示す
 - *) 垂木は45x120@455とする
 - *) 屋根は構造用合板t=12 (N50@150) とする
 - *) 図中、  は化粧部材を示す



工事名称	矢板市立東小学校改築工事		
図面名称/縮尺	校舎(木造) 屋根8 柱伏図	A1(S=1/50) A3(S=1/100)	図面番号
設計年月日	令和7年3月21日		S-309
設計者			
発注者	矢板市役所		



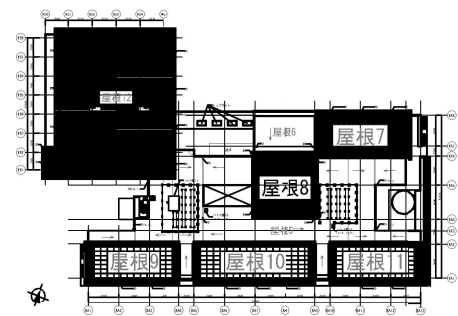
断面リスト			
符 号	サイズ	材 種	等 級
8c1化粧	240x600	杉集成材	E65-F225
8V1化粧	180x240	杉集成材	E65-F225
8V2化粧	240x300	杉集成材	E65-F225
8G1化粧	240x900	杉集成材	E65-F225
8G2化粧	180x900	杉集成材	E65-F225
8G3化粧	240x900	杉集成材	E65-F225
8b1	120x180	杉集成材	E65-F225
8sv	M22TB	鋼材	SNR400B
垂木	45x120	スギ製材	JAS甲種2級以上

屋根葺き材仕様
フッ素ガレバリウム鋼板-0.4嵌合式立ハゼ葺@455
(発砲ポリエチレンt2.0裏貼)
改質アスファルトルーフィングt1.0(片面接着)
野地板：構造用合板t12
垂木：45:120@455
はぜの間隔 455mm
吊子の間隔 250mm(1箇所釘2本留め)
釘の仕様 N50 18本/m2

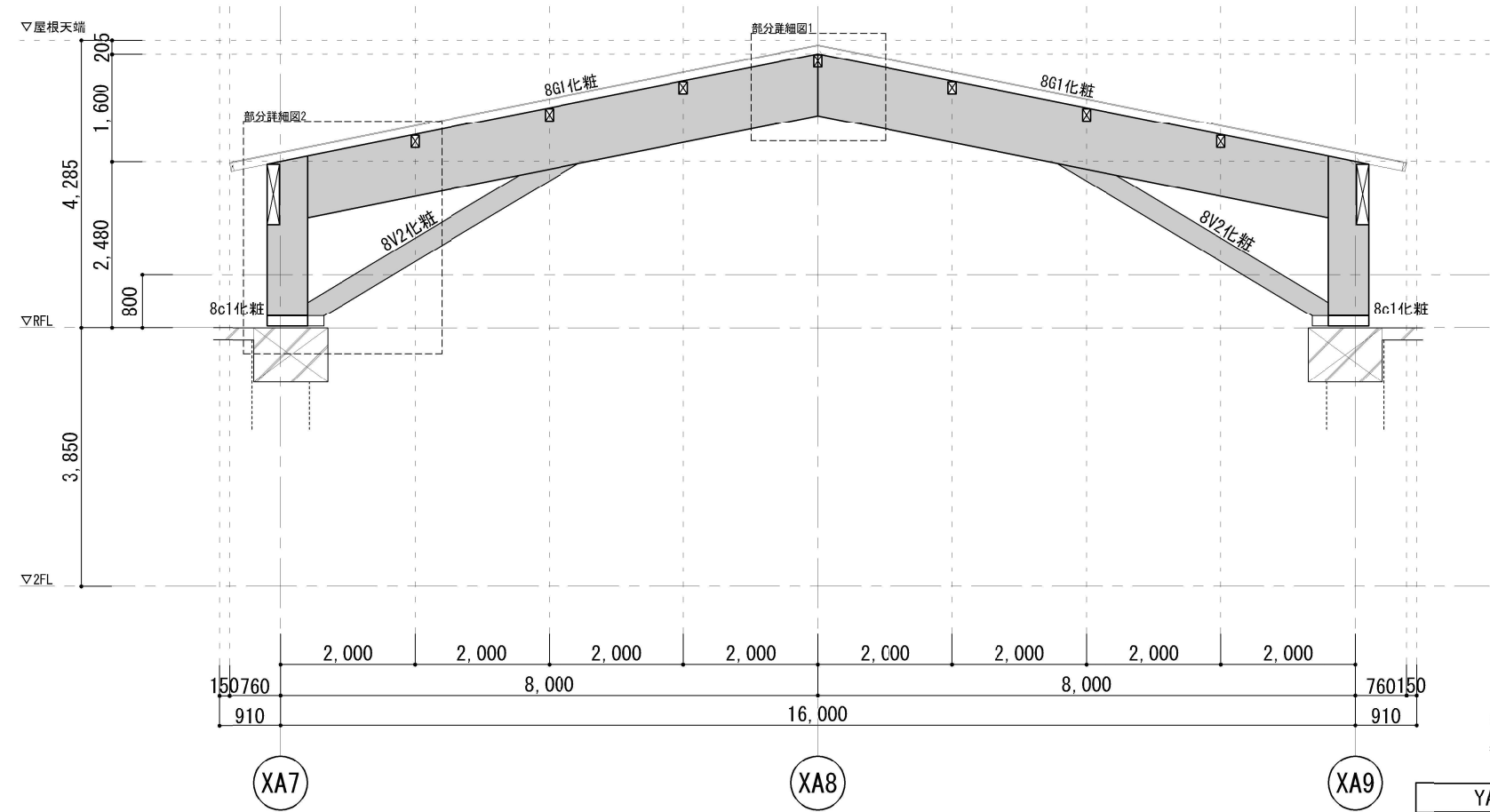
使用部材・防腐防蟻
軸組みに使用している柱・土台はJASの規定通り
防腐・防蟻については木質工事特記仕様書に記載通り

柱の有効細長比
8c1化粧 λ=2,480/69.23=35.79 <150 OK

- 特記事項
- *) 図中、梁符号の  は登り梁を示す
 - *) 垂木は45x120@455とする
 - *) 屋根は構造用合板t=12 (N50@150) とする
 - *) 図中、  は化粧部材を示す
 - *) 図中の金物符号は以下を示す
J:J-18 HC:ホームコネクター

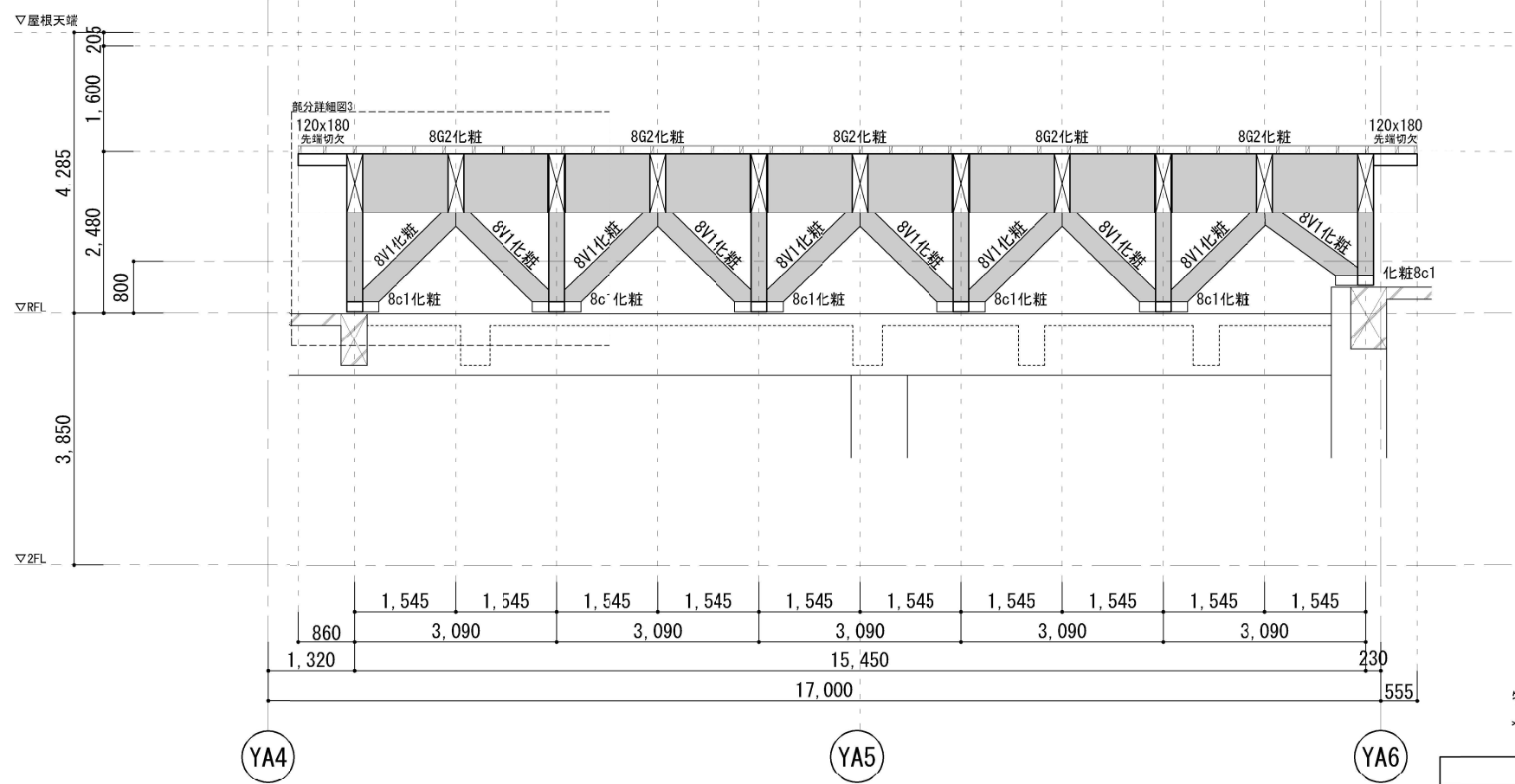


工事名称	矢板市立東小学校改築工事		
図面名称/縮尺	校舎(木造) 屋根8 屋根伏図 A1(S=1/50) A3(S=1/100)		図面番号
設計年月日	令和7年3月21日		S-310
設計者			
発注者	矢板市役所		



特記事項
*) 図中、 は化粧部材を示す

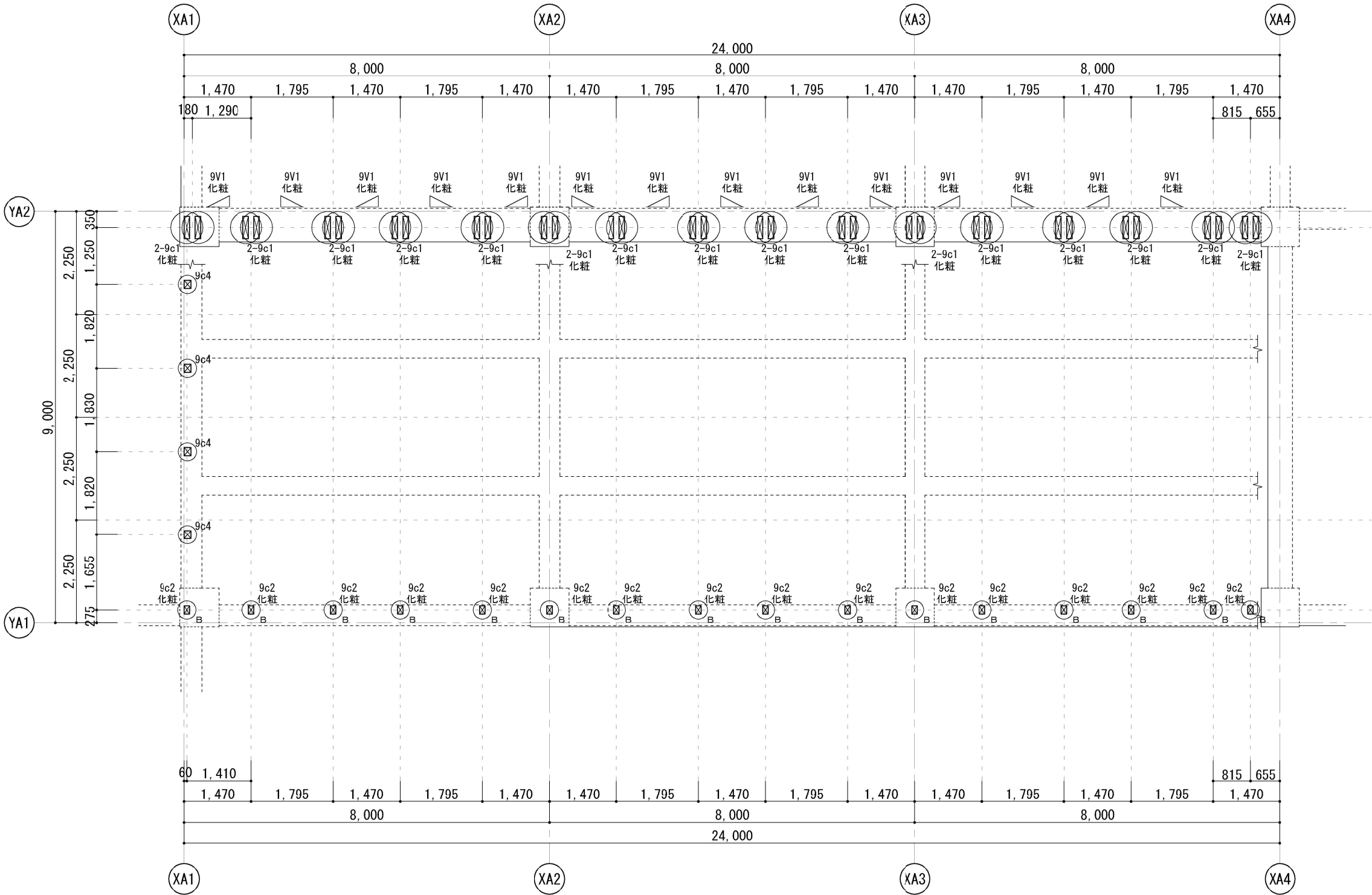
YA4通り+4,410 軸組図



特記事項
*) 図中、 は化粧部材を示す

XA7通り 軸組図

工事名称	矢板市立東小学校改築工事		
図面名称/縮尺	校舎(木造) 屋根8 軸組図	A1(S=1/50) A3(S=1/100)	図面番号
設計年月日	令和7年3月21日		S-311
設計者			
発注者	矢板市役所		



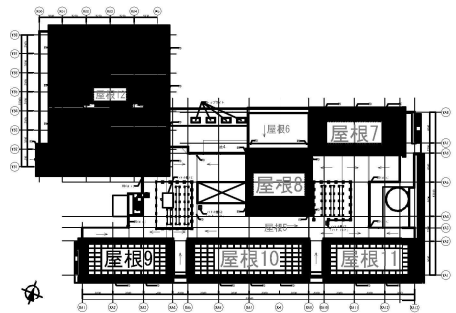
断面リスト			
符 号	サイズ	材 種	等 級
9c1化粧	120x480	杉集成材	E65-F225
9c2化粧	120x180	杉集成材	E65-F225
9c4	150x180	杉集成材	E65-F225
9V1化粧	120x180	杉集成材	E65-F225
9G1化粧	120x540	杉集成材	E65-F225
9G2化粧	180x600	杉集成材	E65-F225
9G2a	120x180	杉集成材	E65-F225
9G3	120x360	杉集成材	E65-F225
9b1	120x180	杉集成材	E65-F225
9sv	M16TB	鋼材	SNR400B
垂木	45x120	スギ製材	JAS甲種2級以上

屋根葺き材仕様
フッ素ガレバリウム銅板:0.4嵌合式立ハゼ葺@455
(発砲ポリエチレンt2.0裏貼)
改質アスファルトルーフィングt1.0(片面接着)
野地板:構造用合板t12
垂木:45:120@455
はぜの間隔 455mm
吊子の間隔 250mm(1箇所釘2本留め)
釘の仕様 N50 18本/m2

使用部材・防腐防蟻
軸組みに使用している柱・土台はJASの規定通り
防腐・防蟻については木質工事特記仕様書に記載通り

柱の有効細長比
9c1化粧 λ=1,686/34.6l=48.67 <150 OK
9c2化粧 λ=3,845/34.6l=110.99 <150 OK
9c4 λ=5,270/43.3l=121.70 <150 OK

特記事項
*) 図中の金符号号は以下を示す
B:B120



工事名称	矢板市立東小学校改築工事		
図面名称/縮尺	校舎(木造) 屋根9 柱伏図	A1(S=1/50) A3(S=1/100)	図面番号
設計年月日	令和7年3月21日		S-313
設計者			
発注者	矢板市役所		